充実する方が好ましい場合もあることに留意すること。などの旨の内容です。

学校教育には、ある程度子どもがいることはベターです。しかし、この弱点は指導いかんによって乗り越えられます。子どもの数が少なくても、小規模校の適正規模とは、子どもたちに、生きる力が身につく規模と考えています。

**Q3** 地域住民や保護者の意向や考え方を聞く、意見交換会等についての考えを伺う。

**答**（堀部教育長）

現在、小規模校のメリットを最大限に生かし、子どもの教育を充実させる手立てに力を入れています。一方で小規模校のデメリットを最小化する方策も講じています。

現段階で、統合を考えていないことから、行政主体の意見を交換する場を設けることは考えていません。町として、移住・定住に力を入れておりますので、今後も移住してみえる人が増え、子どもの数も増加する可能性もあると思われます。

今後のあり方については、時間をかけ、慎重に考えていきたいと思います。必要となったときには、ご意見をお伺いする機会を設けることも検討していきたいと思います。

## 加藤良治議員

### 問 間伐材等の活用について

**Q1** 身近な資源を有効に活用し、高齢者の増加に即した優しい町づくりとして、町中にベンチを設置してはどうか。

**答**（秋松農林課長）

間伐材でのベンチの設置につきましては、県森林・環境税事業の市町村提案事業にて、岐阜証明材推進制度に係る推進事業者を活用し、福祉施設、教育施設などに設置をすることはできますが、町中等への設置には難しいと聞いています。

町中ベンチの計画は、間伐材の活用策の一つとして良いものと考えますが、設置場所等の検討、ベンチの瑕疵等で発生する補償問題、事業費等の問題もあり、まだまだ検討の余地が必要であると思います。

今後、県森林・環境税事業及び平成31年度から開始される、森林環境譲与税を活用し、森林整備とともに、間伐材の活用についても模索していきたいと思っています。

### 問 ぎふ清流おもいやり駐車場制度について

**Q1** 県は本年秋の導入を目指しているが、当町での申請や受付など、今後の取り組みと現状について伺う。

**答**（藤本健康福祉課長）

パーキングパーミット制度は、車いすマークなどの障がい者等が利用する駐車場において「健常者が駐車する等の不正利用がある。」、「見た目上、障がいがあると分からない方が、利用しづらい。」といった問題を解決することを目的に、利用できる対象者の要件を設定し、利用証を交付する制度です。県では、ぎふ清流おもいやり駐車場制度として本年10月の制度開始に向けて、準備が進められています。

町内関係者に対してのヒアリング調査は、すでに37府県が導入しているという実績があり、協力施設への調査でも「苦情が1番多いのが身障者用駐車場であったが、不正駐車に対する指導がしやすくなった。」など、双方から良好な声が得られていることから、改めて町として実施する予定はありません。

啓発活動についてですが、制度の周知・普及のため、広く町民の皆さまにもこの制度を理解していただくことが必要と、町広報紙・ホームページでもお知らせしていきます。

町の対応事務ですが、住民の利便の観点から利用証の交付事務ついて、当町も県と一体となって進めていきます。また、母子手帳や身障者手帳等の交付時におけるご案内など、継続した周知活動も町の対応範囲であると考えております。

### 問 パソコン・スマホ等を利用した情報発信などの充実について

**Q1** 片方からの情報発信ではなく、双方向での情報発信ができる機能を有効に活用するなど、町民と行政との距離を縮める仕組みが必要ではないかと思うが、町執行部の考えを伺う。

**答**（吉田総務課長）

双方向での情報発信ができる機能を有効に活用して、町民と行政との距離を縮める仕組みが必要だというご意見ですが、そのとおりだと考えております。ただ、町としては、ホームページの「町民の声」による投稿や電話等でご意見、ご提案をお知らせいただければ、十分その役割は果たせるのではないかと考えております。

しかし、インターネットを介した情報は、一部ではありますが、その匿名性のため、十分な対応をできかねる点があります。一例ではありますが、ご意見に対し、もう少し詳しいお話を聞く必要があったことから、問い合わせのメールをお送りしましたが、返事を頂けなかったこともありました。

「まちもん」につきましては、町民がスマホを使って、行政と連携できるソフトであると思っています。

しかし、投稿者である町民は無料アプリをダウンロードすることで、費用は掛かりませんが、それを受ける行政側にとっては、当然、費用は発生します。導入している愛知県のある町では、投稿数は月に平均2件であり、費用の割にその利用数は少なく、投稿数をもっと増やしたいとの感想を述べられていました。

「まちもん」に代表されるシステムには、防災面、特に効率的な災害調査に効果があるように思われます。現場から直接災害対策本部のパソコンに投稿されれば、調査漏れ、重複等も解消されると思います。ただし、インターネット上にすべての投稿内容が表示されることもあり、十分な検討が必要と考えます。

今後も町にとって、有益なものを選択しつつ、町民の皆様との情報交流に努めていきたいと思います。